

士過十者勝、彼所獲、吏士雖未滿十、而此亡、吏士已過十者負、于時坐上獲最多者勝、勝者飲、負者既飲、斂棋出局、有擒二將、或獲諸吏士滿三十者、霸、霸則諸國皆服、遍飲、在坐而罷、一騎當弓弩刀劍之、
 二、砲當三、裨當四、偏當五、

〔五雜組^六〕司馬溫公製七國象棋法、亦是推廣象戲遺意、而近於腐爛、

智惠將碁

〔藝術要覽^下〕爰に我たま〜東寺の邊に遊ぶ事ありしに、翁貳人將碁をさすを見る、其駒いづれもかたち異なり、三角あり、四角あり、寶珠形、半月、細長、横平く、六角あり、八角あり、十二角あり、十六角あり、劔形あり、菊形あり、矢玉、刀鏑の形も有り、數枚の駒、悉くかたちかはれり、又駒に名、又字もなし、是はいかにと云に、翁是は智惠將碁と云ふ、此形によつて其きゝを定む、夫物はかたちによりて行をなす、大人は大人の働をなし、小人は小人のわざをなす、圓きは圓きはたらき、四角は四角夫々のわざ、其德備る事かたちによれり、^略中 我問ふ、かたちに隨て其行をなすは勿論なり、然るを智惠將碁と云はいかにと、答て、其行かたちに隨ふ事、人之知るといへども、其かたちに應ずる働をえらす、又は其形をはなれての妙ある事ありといへども、猶更得がたし、たとへば業藝の名人とても、身體手足はかはる事なけれども、其身體手足のまつたき用ゐるわざをえらざるゆへ、同じ五體具足しても、上手下手あるがごとし、此將碁專其形に應じつかふゆへ、智惠將碁となづく、^略下

挾將碁

〔梅園日記一〕挾將碁

宋本太平御覽^{七百五} 藝經曰、夾食者二人、黃黑各十七碁、横列於前第四道上、甲乙迭推、二棋夾一爲食、棋不得食、兩不得邊食、不由道則不行、棋入夾、不取食、一棋爲籌、賭多少、隨人所制、これはこゝの挾將碁なるべし、金川瑣記に、夷俗奕棋有二種、一名板帶屑、二人對下、枰内二十四位、人各十二枚、子先盡者爲輸、これも似たる戲にや、